

美しく開放的で包容力のある一流大学

北京大学学生代表

見学日時：2018年12月3日（月）16:30-20:00

見学場所：東京大学

見学概要

グループ討論—AI、人口高齢化、ポピュリズム、トランプ大統領。

立食パーティーでの自由交流。

東京大学では「教養学部で学んだ後に自ら学科を決定する」という方式をとっていることはかねてより耳にしていた。こうした方式は学生が多くの分野に接することを可能にし、北京大学元培学院、浙江大学竺可桢学院等我が国の多くの大学における現在の改革の方向性に合致している。そして交流において私は、東京大学の学生は知識の「幅」を重視しており、様々な専攻からなる私たちに余裕をもって対応していることに気が付いた。午後の討論会では皆は主に少子化や高齢化そして人工知能といった話題について討論を行い、1時間弱の自由討論の後、各グループはプレゼンを行い、その内容の素晴



らしさには私自身驚かされた。夜の懇親会ではまた多くの東京大学の学生と交流を図り、中にはかつて交換留学により北京大学で学んだ学生や北京でのフォーラムに参加したことのある学生もいた。日本、中国、東京大学、北京大学というものについて異なる角度からの観察を通じて導かれた彼らの観点には、とても新鮮に感じると同時に衝撃を受けた。よって私自身、こうした文化的な共通点と相違点についてより全体的な認識が得られ、また習慣によりすでに疎かにしているライフスタイルについて改めて考えさせられた。私はこうした意見交換の機会をとても大切にしている。なぜなら社会学の調査研究においてはフィールドワークこそが研究における中心的方法であり、自ら日本を訪れ東京大学のキャンパスに足を踏み入れ得られた情報は、これまで資料において間接的に得られた情報よりはるかに価値があるからである。いずれにしても、東京大学での活動は世界の一流大学の学術レベル及びその様相を知り、さらに親切で優秀な仲間と知り合うことができた非常に意義深いものであった。

なぜですか？

問：この金色に輝いている物は何かわかりますか？

答：これは本物のノーベル物理学賞のメダルである。現在まで東京大学はすでに2名のノーベル物理学賞受賞者を輩出しており、彼らのメダルや賞状はキャンパス内に展示されている。



問:これはどこですか？

答:美しい東京大学のキャンパスである。正門から入ると道の両側には銀杏並木があり、正面には長い歴史を誇るシンボリックな建築物である安田講堂がある。

感想

東京大学のキャンパスの美しい環境や学術的雰囲気はとても印象深かった。キャンパスの銀杏並木は燃えるような色をしていた。北京は気候的に寒いので、銀杏の葉はすでに枯れ落ちている。またこのすべての建築物が長い歴史を有しているのには驚かされた。その他、私たちはまた本物のノーベル賞のメダルと賞状を目にしたが、これは日本の科学研究のレベルの高さを示すものであった。中国の科学界は日本に比べ大きな開きがあり、中国はこれまで一名のみがノーベル賞を受賞している。中国の大学と違い、東京大学の教授はすべてのことについて自ら担当することで彼らの能力を自由に高めている。一方中国国内の大学には、管理システム上の教授に対する多くの制約が存在している。

